

日本経済の現状と課題

立正大学学長
吉川 洋

- * コロナ禍からの回復が弱い日本
- * アベノミクスでも欧米との比較では低調
- * 経済指標でのランクダウンが続く
- * 社会保障の将来不安から高まる貯蓄性向
- * 負担増問題と高額療養費制度の役割
- * 格差問題をどう考えるか
- * 高齢化で膨らみ続ける財政赤字
- * 国債残高累増でも上昇しない金利
- * 人口と経済成長の関係について
- * イノベーションの主体はあくまで企業



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は、立正大学学長の吉川先生においていただきました。1951年のお生まれで、東京大学を経てエール大学で博士号を取得され、その後、東京大学の教授、経済学部長等を歴任され、小泉内閣時代に経済財政諮問会議の議員をされておられました。現在、立正大学の学長をされておられて、先ほど伺いましたら任期は今年の3月末だそうです。

経済、特にマクロ経済についてたいへん造詣の深い方でございます。日本経済の今日のテーマ、現状と課題について多方面から正確な分析を今日はお伺いできると思います。

それでは吉川先生、よろしく願いいたします。（拍手）

コロナ禍からの回復が弱い日本

吉川 ご紹介にあずかりました吉川でございます。この経済倶楽部では過去にも何回か話をさせていたいておりますが、本日またこうしてお招きいただきまして、たいへん光栄に存じております。よろしくお願いいたします。70分くらい私のほうから話をさせていただきます。最後の10分くらい質疑応答という流れだと伺っています。

早速、日本経済の現状と課題についてお話をさせていただきます。

日本だけではありませんが、ここ2年ほど世界、そして日本経済、そして社会はコロナに振り回されました。たった今も同様であります。